

北海道教育庁学校教育局特別支援教育課事業
「北海道特別支援学校地域連携・協働推進事業」報告書

学校名 北海道札幌あいの里高等支援学校

1 目的

- (1) 共生社会の実現を目指し、札幌市北部の地域において、関係者で連携・協働した取組を推進し、近隣校や企業、事業所等との連携の拡充を図る。
- (2) 学校の取組を発信し、日々の学習活動の成果を発揮する場にするすることで、理解啓発を図る。
- (3) 地域の一員としての自覚を深め、社会に貢献しようとする意欲や態度を育てる。
- (4) 同世代、異世代との交流を通して、コミュニケーション能力や問題解決能力等の資質・能力の育成を図る。

「あい circle」のコンセプト

- ・学校の活動に協力してもらうのではなく、参加者それぞれが主役になって自己実現できる場にし、そこに本校生徒も目的を持って参加する。
- ・障がいの有無に関わらず、生徒からお年寄りまで、様々な人が必要とされながら関わり合える場を作る。

2 取組概要

(1) 実施学年、人数

- ア 第1回あい circle（7月実施） ～ 運営・来場者総数：912名（本校3学年49名）
イ 第2回あい circle（11月実施） ～ 運営・来場者総数：600名（本校1学年62名）

(2) 連携先

- ・北海道教育大学札幌校（共催、後援）
- ・北海道医療大学（後援）
- ・北海道新聞社（後援）
- ・市立札幌豊明高等支援学校
- ・池上学院グローバルアカデミー専門学校
- ・拓北・あいの里連合町内会
- ・社会福祉法人札幌協働福祉会あいの里ワークセンター やすらぎの里 CoCo
- ・NPO 法人オペア障害福祉サービス事業所りあん スイーツ Deco いるむ
- ・社会福祉法人さっぽろひかり福祉会 光ファクトリー
- ・社会福祉法人さっぽろひかり福祉会 パン工房ひかり、大福屋ひかり
- ・株式会社よねたや スイーツ専門店 スイーツピース
- ・社会福祉法人麦の子会 スワンカフェ&ベーカリー ハーベストガーデン
- ・合同会社・ラ・ルーチェ POPCORN CAFÉ
- ・一般社団法人 けさらん
- ・ウェルネススクエア札幌

- ・とれた小屋ふじい農場
- ・どうしん吉村販売所
- ・天野通信株式会社
- ・株式会社パンジ
- ・ファームアグリコラ
- ・Mr. Croissant
- ・ママさん吹奏楽団スノープリズム
- ・北海道教育大学アカペラサークル
- ・あいの里コーラス
- ・あいの里マジック同好会

(3) 期日及び内容

期日	主な内容
令和4年2月	・令和4年度第3回学校運営協議会 目的やコンセプトについて共通理解を図った。
令和5年5月	・令和5年度第1回学校運営協議会 実施場所や内容を確認し、関係する委員と連携しながら役割等を確認した。
令和5年6月	・北海道教育大学との連携 共同企画として、北海道教育大学札幌校の学生と本校生徒が協力して運営業務を進めた。 ・広報活動 拓北・あいの里連合町内会、地域の店舗、新聞店等の協力で、リーフレットを配布して地域に周知した。 ・出展者の募集 本校とつながりのある学校や企業、事業所等、地域の店舗等に出展を呼びかけ、出展者を調整した。
令和5年7月	・第1回あいcircleの実施 合計18の団体が参加し、来場者750名程度。



令和5年9月	- 第2回の計画推進 第1回と同様に広報活動や出展者の調整を行う。 - 地域のサークル団体への参加案内 拓北・あいの里地区センターと連携し、地域で活動しているサークル団体に呼びかけ、ステージ発表の参加者を集約した。 - 地域の店舗等への出展案内 学校近隣の店舗へ参加の呼びかけを行った。
令和5年10月	札幌市内、石狩市内、当別町の小中学校への案内 第2回あい circle と同日開催である本校学校見学会の案内を配布した。
令和5年11月	第2回あい circle の実施 14団体の出展と、4団体のステージ発表を行った。来場者400人程度。
	
令和5年11月	令和5年度第2回学校運営協議会 今年度のあい circle の実施状況について、成果と課題を共有した。
令和6年2月 (予定)	令和5年度第3回学校運営協議会 今年度の反省を踏まえ、次年度のあい circle の計画を検討(予定)

3 成果

- 学校運営協議会を中心に検討を進めたことで、関係者の連携がスムーズになり、目的や方向性を共通理解しながら、それぞれの立場での役割を明確にすることができた。
- 本校生徒、出展者、来場者のアンケートにおいて、「あい circle」の満足度が高かったことから、所期の目的を達成することができたと読み取ることができた。
- 認知度が広がり、地域の方からの主体的な参加希望もあり、新規参入していただく団体が増えた。
- 「あい circle」でのつながりを活用し、今後の授業等でも連携できる見通しがもてた。
- 事前学習から大学生が本校授業に参加し運営業務を行うなど、高大連携した取組が進んだ。

4 今後に向けて

- 地域共同活動への転換や、円滑に運営するための組織の検討が必要である。
- 次年度以降も継続して取り組み、より地域に根ざした取組へ発展させる。
- 小中学校等、学校間での連携も推進する。